2020年度 開智中学校(第1回)(問題)

4 開智商店は、2種類の商品AとBを2日間にわたって販売しました。

商品 A は 1 個あたり原価 500 円で、商品 B は 1 個あたり原価 400 円で仕入れ、それぞれいくらかの利益を見込んで定価をつけて売り出すことにしました。商品 B の 1 個あたりに見込んだ利益は、商品 A 1 個あたりに見込んだ利益の $\frac{3}{4}$ 倍でした。

1 日目, 商品 A と B は合計で 225 個売れ, 売上金額は 139500 円, 販売により得られた利益は 39000 円でした。

- (1) 商品Aはいくつ売れましたか。
- (2) 商品Bの定価はいくらですか。

2日目, 残った商品はA, Bとも定価ですべて売れ, 2日目の売上金額は 101000 円でした。

(3) 2日間の利益の合計として考えられる金額は最も多くていくらですか。



2020年度 開智中学校(第1回)(解説)

4

(1) つるかめ算…

売れた 225 個の原価の合計は 139500 — 39000 = 100500 円なので、 売れた 225 個が全部商品Bだとすると、原価の合計は 400 × 225 = 90000 円となり、実際より 100500 — 90000 = 10500 円少なくなる。 商品Bを商品Aに替えると、原価の合計は 1 個につき 500 — 400 = 100 円増える ので、売れた商品Aは 10500 ÷ 100 = 105 個 です。

(2) (1)より、売れた商品Bは225-105=120個。

また、商品Aと商品Bの1個あたりの利益の比は1: $\frac{3}{4}$ = 4:3なので

商品A全体の利益と、商品B全体の利益の比は

 $4 \times 105 : 3 \times 120 = 420 : 360 = 7 : 6_{\circ}$

利益の合計は 39000 円なので、商品 B 全体の利益は

$$39000 \times \frac{6}{7+6} = 39000 \times \frac{6}{13} = 18000 \, \text{Pl}$$

よって、商品B1個の利益は18000÷120=150円なので、

商品Bの定価は400 + 150 = 550 円 です。

(3) (2)より、商品 B 1 個の利益は 150 円、商品 B の定価 550 円。

また、商品 A 1 個の利益は 150 × $\frac{4}{3}$ = 200 円、商品 A の定価は 500 + 200 = 700 円。

ここで、商品が全部 A だとすると、

101000 ÷ 700 = 144 余り 200 より、A 144 個で余り 200 円。

よって、A 143 個で、余り 20 + 700 = 900 円、A 142 個で余り 1600 円、

A 141 個で余り 2300 円、 A 140 個で余り 3000 円、 A 139 個で余り 3700 円、

A 138 個で余り 4400 円。4400 ÷ 550 = 8 個より,

A 138 個、B 8 個で売上金額はちょうど 101000 円となる。

このとき、利益の合計は 200 × 138 + 150 × 8 = 27600 + 1200 = 28800円。

また, 550円と700円の最小公倍数は7700円で,

7700 = 700 × 11 = 550 × 14 より、

売上金額が 101000 円のまま,商品A 11 個と商品B 14 個を交換できる。

このとき、利益は交換するごとに 200 × 11 = 2200 円、2100 円より、

2200 - 2100 = 100円ずつ減っていくので、

2日目の利益の最大値は28800円。

したがって、2日間の利益の合計として考えられる利益はもっとも多くて 39000 + 28800 = 67800 円 です。

2020年度 開智中学校(第1回)(解答)

- **1** (1) $1\frac{1}{5}$ (2) 28 (3) 70 円 (4) 39 人 (5) 504 けた目 (6) 22 個 (7) 540 度 (8) 257.48cm ³
- 2 (1)5段目,4番目 (2)91 (3)45段目,84番目
- 3 (1)31 分後 (2)分速 165m (3)1980m
- 4 (1) 105 個 (2) 550 円 (3) 67800 円